

1 総括についての評価

前後期の学校生活アンケートをはじめ、中学生チャレンジテスト等の客観的な数値データを基に検証・総括がなされており、評価としての信頼性が担保されている。また、アンケート結果について、「最もあてはまる」だけでなく「あてはまる」も含めて肯定的な回答全体も比較できるデータを作成したことで、結果の経年変化をたどることができる。

今年度の教育活動について、コロナ禍で学校行事や PTA 活動にかかっていた制限が解除され、子どもたちにとって有意義であると考えられる行事が元に戻ってきてている。学校ホームページでは、こうした行事はもちろん、日々タイムリーに学校の様子が発信されており、生徒の教育活動の様子が、「開かれた学校づくり」を推進していることがわかる。

今後コロナ禍を脱したところから見えてきた、不登校生徒や外国籍生徒の増加、学校内の規則の改定といった学校が抱える新たな教育課題の解決のため、生徒による主体的活動を推進し、子どもファーストの考え方のもと、熱意あふれる「東中」の特色ある教育実践を引き続き展開していただきたい。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和 5 年度のに学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないだと思いますか」について、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 86% 以上の目標に対し、85% となった。
2. 令和 5 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる目標について、前年度 8.0% に対し、今年度も 8.0% とほぼ変わらなかった。
3. 令和 5 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる目標について、昨年度 51.7% に対し、今年度 57.6% と改善した。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

- 1 出席日数の増（学校内外で I C T 等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）
- 2 I C T の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

1. 令和 5 年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65% 以上にする目標に対し、66%

の結果になった。

2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を64%以上にする目標に対し、66%の結果になった。
3. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を41%以上にする目標に対し33%の結果になった。
4. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を48%以上にする目標に対し、45%の結果になった。
5. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を63%以上にする目標に対し、70%の結果になった。
6. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を59%以上にする目標に対し、57%の結果になった。
7. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする目標に対し、36%の結果になった。
8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を31%以上にする目標に対し、28%の結果になった。また、令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を56%以上にする目標に対し、64%の結果になった。
9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでもよく知ることができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を66%以上にする目標に対し、55%の結果になった。
10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を20%以上にする目標に対し、18%の結果になった。
11. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を76%にする目標に対し、85%の結果になった。
12. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、52%の結果になった。
13. 令和5年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする目標に対し、53%の結果になった。
14. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、

「犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を61%以上にする目標に対し、63%の結果になった。

【評価】

学校生活アンケートの数値データに加え、経年変化が捉えられるよう、情報が用意されており、「最も当てはまる」の項目だけでは見えてこない、学校がこれまで通り行ってきていた遜色ない努力が、大きな変化なく高水準で保たれていることが分かる。

アンケート結果にあるように、例えば美化委員会における詳細な美化点検や破損調査をさらに効果的にするため、調査結果や修理状況の報告などのフィードバックを生徒や教職員に行うことなどを通じて、より生徒のモチベーションを高め、次の活動の原動力にしていっていただきたい。

アンケート結果からわかる以上に、子どもたちは、学校での充実した教育活動を通じて学校生活を楽しんでいることが実感として伝わってくる。子どもたちの成長に関わる大きな変化は何がきっかけで生じるかがわからないので、様々な活動を通じて、子どもたちの力を引き出していただいていることに感謝しつつ、今後も応援をしていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」について、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、43%の結果になった。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる目標に対し、2年生は0.01ポイントの増加、3年生は0.03ポイントの減少となった。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を61%以上にする目標に対し、76%の結果になった。
- 令和5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を54%以上にする目標に対し、57.5%の結果になった。

学校園の年度目標

- 令和5年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を47%以上にする目標に対し、英数国三教科の平均が53.3%という結果になった。
- 令和5年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、59%の結果になった。
- 令和5年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を26%以上にする目標に対し、36%の結果になった。

4. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を51%以上にする目標に対し、55%の結果になった。
5. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、62%の結果になった。
6. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を56%以上にする目標に対し、66%の結果となった。
7. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を66%以上にする目標に対し、69%の結果となった。
8. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を66%以上にする目標に対し、64%の結果になった。
9. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする目標に対し、72%の結果になった。
10. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を40%以上にする目標に対し、45%の結果になった。

【評価】

生徒たちの学力についての結果から、生徒たちも学校も大変努力していることが分かる。その評価についても根拠が示されているとわかる。

一方で、アンケートの保護者の結果には「家庭学習をしている」についての数値が低くなっています。学校での授業に加えて成績の高さを支える家庭学習の充実に向けた習慣づくりが期待される。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

1. ICTの活用に関する目標を設定する。
 - ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校は1人1台端末などのICT機器を活用した学習活動の実践に努めている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を71%以上にする目標に対し、59%の結果になった。
 - ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「インターネットやSNSを正しく安全に利用することができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする目標に対し、72%の結果になった。
 - ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策としてICTを活用している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を70%以上

にする目標に対し、69%の結果になった。

- ・令和5年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を57%以上にする目標に対し、55%の結果になった。

2. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

- ・4~11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して(基準2)を満たす教員の割合を30%以上にする目標に対し、46.8%の結果になった。
- ・令和7年度の4月~11月までの8か月間の時間外勤務時間において、教員全体でLv4の割合を前年度より半減させるとともにLv2以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やす目標に対し、すべての月で達成することができた。

学校園の年度目標

1. ゆとりの日を月1回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす目標に対し、毎月1回のゆとりの日を設定することができた。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を51%以上にする。目標に対し、54%の結果になった
2. 令和5年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」について、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を41%以上にする目標に対し、56%の結果になった。

【評価】

学校の様子について、ホームページ等で発信されている更新数や情報量からは大変多くのことがわかる。中でも、職場体験を含め、生徒にとって有意義であると感じられる数多くの行事がコロナ禍を抜けて復活していることがわかり、うれしく思う。

一方で、長年学校協議会に携わっているからこそわかる情報もあるため、学校協議会からも情報を発信していく役目を担っていくことが大切になるとも考えている。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校を取り巻く教育課題は複雑多様化しており、特に不登校生徒が増えつつあるという課題の解決に向けて組織的な対応が必要不可欠である。

ただ、原因が明確にわからず、子どもにとって社会が変容する速度についていけないために、不登校となっている生徒や、周囲からのストレスに対する耐性を保てずに不登校となっていく生徒がいることが、これまでと異なるところであるため、学校にとっても対応する困難さがあることを感じる。

また、外国籍生徒の編入数も多く、学校側の対応も大変であることが感じ取れた。その一方で、日本語を習得しつつある生徒が、新たに転入してきた生徒の通訳をして「役に立てた」と喜んでいた姿があったり、子どもたちの中で笑いあっていたりした姿があったことが印象的である。学校の教育活動の中で、こうした様子が垣間見られることは、教員の皆さんのおかげだとも改めて感じる。

確かに、時代の早い流れの中で、様々な価値観を持ち合わせた子どもや保護者が入学してこられると思うので、そのような保護者の方々から意見を聞ける場があればよいと思う。しかしながら、すべての意見を受け入れてこれまでの東中学校の伝統ある教育活動を安易に変容させていくのではなく、誰からもわかりやすい教育内容を全教職員で共有するなどしながら、生徒たちに「決まりを守ることは、社会に出ても必要なことであり、それが自分たちの安全と命を守ることにつながっていくのだ」ということを教えていただき、社会に貢献できる人間を育成していくいただきたい。

新校舎の完成を含め、東中が新しくなってきている。正門に塗られた校章や、東門、西門のネームプレートは大変かっこいいと感じる。今後、子どもたちはもちろんであるが、教職員の皆さんにも「誇りを胸に受け継げ東」を合言葉に、「地域に誇れる」「地域が誇れる」、質の高い「東中教育」を展開していっていただきたい。